

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

人間社会研究科は、改革意識が高く教員組織と教育課程の両面から現代に見合った形に整備されている。まず、質保証体制であるが、2専攻体制の比較的規模の小さい研究科であるのにも関わらず、研究科長および学部長経験者により組織され、研究科長・専攻長にインタビューを行うなど、質保証の要であるPDCAサイクルを実質的に機能させている。この質保証体制を基軸に組織と教育の改革が継続的になされていることは高い評価に値する。

教員組織においては、上記の質保証体制の他、執行部が運営の責任を持ち、教育に対しては研究科教務委員が組織され、それぞれが役割を分担することにより効果的な運営を実現させている。教員組織の年齢構成もバランスが取れており、長期的な観点から組織体制を構築していることが伺える。

一方、教育に関しては、未整備な研究科もある中で、修士・博士両課程においてコースワークとリサーチワークが有機的統合された効果的な教育が行われていることは大きく評価される。シラバスについても教務委員が全てのシラバスをチェックするなど確認と適切性の検証がなされている。さらに、学生の受け入れについては、安定した好ましい定員充足率を保っているが、これまでのカリキュラム上の工夫や広報戦略が功を奏した結果であり、研究科にとっては当然の結果というべきことかも知れない。これらの努力は充足率の低い他の研究科が見習うべきことではないだろうか。

このような好ましい状況においても、教育・研究の両サイドからさらなる改善に向けて多くの検討がなされていることは大いに評価されることである。研究科の今後のさらなる飛躍に期待したい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

教員組織と教育課程、質保証体制に関して、おおむね高く評価して頂いた。学生の受け入れに関しては、2018年度入学者が減り入学定員充足率が低下したのを契機として、入学者選抜制度別の具体的な改善策が急務である。また留学生の教育研究支援に関しても、研究科教務委員会ならびに研究科教授会で改善に努めたい。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

人間社会研究科は2017年度大学評価において高い評価を受けており、教員組織の編制、教育課程・内容・方法・評価・成果などの項目については新カリキュラムの議論も含めて引き続きこれまでの取り組みの発展に努めていただきたい。一方、学生の受け入れに関しては、2018年度入学者が減り入学定員充足率が低下しているため具体的な改善策の検討が必要である。留学生の教育研究支援・就職やグローバル化推進のための取り組みを継続して追及していただきたい。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

人間社会研究科は、法政大学の「開かれた大学、開かれた精神」「自立型人材の育成」という基本理念を基礎に、「地域連携」「Well-being」をキーワードとするミッション・ビジョンに沿って、2002年に創設された臨床系の研究科である。

人間社会研究科の理念と目的は、地域社会を基盤に人間の「生」(Life)をトータルに捉え、生活者の視点からすべての人々が生涯を通じてWell-beingの実現を図る福祉社会を創造するために、コミュニティと人間の心を視野に入れた研究領域から現代社会の問題を明らかにし、その解決に向けた研究と、そのような研究能力を備えた人材を育成していくことである。

具体的には修士課程の福祉社会専攻では、社会福祉・地域づくりの2領域が協同し、人々の生涯にわたるWell-beingの実現に関わる専門的かつ実践的な学識を教授することによって、福祉社会形成に資する高度専門職業人および研究者の育成を行い、同じく修士課程の臨床心理学専攻では、臨床心理学の学識と演習・実習を通じての職能的訓練及び実践的資質を教授することによって、公認心理師および臨床心理士をはじめとする臨床心理分野の高度専門職業人及び研究者の育成を目的としている。また博士後期課程の人間福祉専攻では、社会福祉・地域づくり・臨床心理学の3領域が協同し、Well-being概念に基づく福祉社会の実現に関わる理論と方法を自立的に開拓し得る実践的研究者の育成を目的とする。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】(教育目標) ※大学院学則別表()

人間社会研究科は、地域社会を基盤に人間の「生」(Life)をトータルに捉え、生活者の視点からすべての人々が生涯を

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

通じて Well-being の実現を図る福祉社会を創造するために、コミュニティと人間の心を視野に入れた研究領域から現代社会の問題を明らかにし、その解決に向けた研究能力を備えた人材を育成していくことを目的とする。

この目的のもと、臨床重視の研究科として、以下の能力を有する人材を育成する。

- 修士課程の福祉社会専攻では、社会福祉・地域づくりの2領域が協同し、人々の生涯にわたる Well-being の実現に関わる専門的かつ実践的な学識を教授することによって、福祉社会形成に資する高度専門職業人および研究者を育成する。
- 修士課程の臨床心理学専攻では、臨床心理学の学識と演習・実習を通じての職能的訓練及び実践的資質を教授することによって、公認心理師および臨床心理士をはじめとする臨床心理分野の高度専門職業人及び研究者を育成する。
- 博士後期課程の人間福祉専攻では、社会福祉・地域づくり・臨床心理学の3領域が協同し、Well-being 概念に基づく福祉社会の実現に関わる理論と方法を自立的に開拓することができる実践的研究者を育成する。

①研究科（専攻）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか はい いいえ

②研究科（専攻）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。 はい いいえ

③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。

（～400 字程度まで）※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。
 学部・研究科の将来構想を検討するための教授会懇談会において、理念・目的に立ち返り、その適切性についても意見交換し、検証している。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①研究科（専攻）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。 はい いいえ

②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか

（～400 字程度まで）※具体的な周知・公表方法を記入。

『大学院要項』、『大学院パンフレット』、ホームページ、大学ポートレートにて、周知・公表している。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
研究科設立時の理念と目的を共有しながら、常に時代の趨勢との適合性について検証を行っている。	1.1③

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

法政大学の理念を礎として、人間社会研究科は「地域社会を基盤に人間の「生」(Life) をトータルに捉え、生活者の視点からすべての人々が生涯を通じて Well-being の実現を図る福祉社会を創造するために、コミュニティと人間の心を視野に入れた研究領域から現代社会の問題を明らかにし、その解決に向けた研究と、そのような研究能力を備えた人材を育成していくこと」という明確な理念・目的の設定、具体的な教育目標が設定されている。その内容については教授会懇談会において意見交換を行うことにより適切性を検証するというプロセスを踏んでいる。研究科（専攻）の理念・目的は学則に明示されている。理念・目的の周知については、大学院要項、大学院パンフレット、ホームページ、大学ポートレートで周知、公表しており適切と判断される。

2 内部質保証

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。 はい いいえ

【2017 年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・2017 年度質保証委員会は研究科長経験者 2 名から構成されている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

- ・同委員会は、2018年2月13日（火）と2月28日（水）2回開催された。
- ・第1回委員会では、教育課程・教育内容、教育方法、成果、学生の受け入れ、学生支援等に関して、現状の課題・今後の対応等に関する研究科執行部による点検・評価の妥当性に関して総合的に検討した。
- ・第2回委員会では、研究科執行部（研究科長、専攻主任）へインタビューを行い、研究科の課題とその対応について、特に留学生に対する指導の現状と課題、さらに日本語指導、研究指導、論文指導のあり方について議論した。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
研究科長経験者で構成される質保証委員会が、研究科執行部へのヒアリングも行いながら、点検評価を行いつつ、今後の課題についても議論している。	2.1①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

人間社会研究科質保証委員会は研究科長経験者2名から構成されており、2017年度は2回開催された。内容については教育課程・教育内容、教育方法、成果、学生の受け入れ、学生支援等に関して、現状の課題・今後の対応等に関する研究科執行部による点検・評価の妥当性に関して総合的に検討しており適切に機能している。また研究科執行部（研究科長、専攻主任）へインタビューを行い、研究科の課題とその対応について、特に留学生に対する指導の現状と課題、さらに日本語指導、研究指導、論文指導のあり方について議論しており適切に活動していると評価できる。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

所定の期間在学し、所定の単位を修得したうえで、現代社会の中に Well-being を実現することができる人材の育成という本研究科の教育目標を踏まえ、以下の水準に達した学生に学位を授与する。

<福祉社会専攻>

福祉社会の形成に関わる専門知識と研究方法を習得し、それらにもとづく基礎的な研究力を、高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能な、以下の知識と能力を有する学生に「修士（福祉社会）」・「修士（学術）」を授与する。

- 【DP 1 専門知識】 社会福祉及び地域づくりと研究方法に関する必要な専門知識を有する
- 【DP 2 読解力】 内外の先行研究を正確に読み取ることができる
- 【DP 3 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる
- 【DP 4 実践能力】 職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる
- 【DP 5 研究力】 自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる

<臨床心理学専攻>

心のケアの専門家に必要とされる専門知識と研究方法を習得し、それらにもとづく基礎的な研究力を高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能な、以下の知識と能力を有する学生に「修士（臨床心理学）」を授与する。

- 【DP 1 専門知識】 臨床心理学と研究方法に関する必要な専門知識を有する
- 【DP 2 読解力】 内外の先行研究を正確に読み取ることができる
- 【DP 3 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる
- 【DP 4 実践能力】 職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる
- 【DP 5 研究力】 自発的に研究課題を設定し、研究を遂行できる

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<人間福祉専攻>

先端の研究課題を設定し、それに対して、創造的な答えを導き出し、自立して研究を行なうことが可能な、以下の知識と能力を有する学生に「博士（人間福祉）」、「博士（学術）」を授与する。

- 【DP 1 専門知識】 先端的研究と研究方法に関する高度な専門知識を有する
- 【DP 2 読解力】 内外の先行研究を正確かつ批判的に読み取ることができる
- 【DP 3 表現力】 文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる
- 【DP 4 実践能力】 職業人として必要とされる高度な実践能力を有する
- 【DP 5 研究力】 先端の研究課題について、オリジナリティ豊かな結論を導き出し、論証できる

①研究科（専攻）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（修了要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

<福祉社会専攻>

【教育課程の編成方針】

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

- 【CP 1】 DP1 専門知識、DP2 読解力を養成するため、コースワークとして、福祉社会研究に共通する研究方法を修得する「専門共通科目」、福祉社会の課題と理論を3つの領域から学ぶ「専門展開科目」をおく
- 【CP 2】 DP2 読解力とりわけ専門英文読解能力養成のため、「原書講読研究」をおく
- 【CP 3】 DP3 表現力、DP4 実践能力、DP5 研究力を養成するため、リサーチワークとして、修士論文に収斂するよう個別指導を行う「演習科目」をおく

【学習方法・順序等】

- ・1年次はコースワークを重視し、まずは、研究のデザインと研究方法、データ収集とデータ分析の技法について、複数教員による多様な視点からの講義を受ける。
- ・リサーチワークとしての修士論文に収斂する個別指導は、1年次は学生の研究課題に即した指導教員が行い、秋学期に研究構想を固め、2年次からは隣接研究分野の副指導教員も加わり両者が協力して行う。
- ・個別論文指導に加え、修士論文の構想を固める時期に専攻の全教員参加のもとでの発表を行う。
- ・なお、人間を対象とする調査を行うにあたっては、研究倫理委員会による審査を事前に受け、研究倫理を遵守しているとの承認を得る。

<臨床心理学専攻>

【教育課程の編成方針】

本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。

- 【CP 1】 DP1 専門知識、DP2 読解力を養成するため、コースワークとして、近年の臨床心理学へのニーズの多様化・高度化に応じた臨床心理学の基幹を修得する「専門基幹科目」、それらをより深く展開する「専門展開科目」をおく
- 【CP 2】 DP3 表現力、DP4 実践能力、DP5 研究力を養成するため、リサーチワークとして、臨床実践に関する「実習科目」と修士論文に収斂する「研究指導科目」をおく

【学習方法・順序等】

- ・1年次はコースワークを重視し、まずは、臨床心理士に必要な臨床実践技術について、複数教員による多様な視点からの講義と事例研究を行う。
- ・リサーチワークとしての修士論文に収斂する個別指導は、1年次は学生の研究課題に即した指導教員が行い、秋学期に研究構想を固め、2年次からは隣接研究分野の副指導教員も加わり両者が協力して行う。
- ・個別論文指導に加え、修士論文の構想を固める時期に専攻の全教員参加のもとでの発表を行う。
- ・なお、人間を対象とする調査を行うにあたっては、研究倫理委員会による審査を事前に受け、研究倫理を遵守しているとの承認を得る。

<人間福祉専攻>

【教育課程の編成方針】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。</p> <p>【CP1】 DP1 専門知識、DP2 読解力、DP3 表現力を養成するためコースワークとして、福祉系・地域系・臨床心理系の科目（「特殊講義」）をおく</p> <p>【CP2】 DP3 表現力、DP4 実践能力、DP5 研究力を養成するため、リサーチワークとして、論文指導に重点を置いた特別演習を設ける</p> <p>【学習方法・順序等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を受けるだけでなく、コースワークとして、関連分野の講義を受講する。 ・リサーチワークとしての博士論文に収斂する個別指導は、1年次は学生の研究課題に即した指導教員が、2年次からは隣接研究分野の副指導教員も加わり両者が協力して行う。 ・個別論文指導に加え、専攻の全教員参加のもとで、各年次に学位論文の発表を行う。 ・なお、人間を対象とする調査を行うにあたっては、研究倫理委員会による審査を事前に受け、研究倫理を遵守しているとの承認を得る。 	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『2018年度大学院要項』（学位論文について） ・『2018年度人間社会研究科パンフレット』 ・研究科ホームページ http://www.hosei.ac.jp/gs/kenkyuka/ningenshakai/index.html 	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。</p> <p>専攻会議、研究科教務委員会、研究科教授会において学位論文の水準の適格性を点検しつつ、学位授与方針や教育課程の適切性そのものについても意見交換している。2013年度に学位基準の一部を改正して要件を明確にした。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>コースワークとして (1) 専門共通科目（福祉社会専攻）、専門基幹科目（臨床心理学専攻）、(2) 専門展開科目（両専攻）を設定し、その上で、リサーチワークの演習科目（福祉社会専攻）、研究指導科目（臨床心理学専攻）を配置し、適切に開講し、教育課程を体系的に編成している。</p>	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>公認心理師資格指定科目に対応したカリキュラムの改編を行った。このことによる、従来の臨床心理士資格取得には影響は出ない。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『2018年度大学院要項』（福祉社会専攻カリキュラム・ツリーとカリキュラム・マップ、臨床心理学専攻カリキュラム・ツリーとカリキュラム・マップ） 	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【根拠資料】※「はい」を選択した場合に単位化及び修了要件として設定されていることが確認できる資料を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『2018年度大学院要項』（人間福祉専攻の修了要件） 	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせさせた教育課程の概要を記入。</p> <p>「選択・必修科目」では、福祉系・地域系・臨床心理系の科目がコースワークとして開設されており、「必修科目」としてリサーチワークに重点を置いた特別演習が設けられている。</p>	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

カリキュラム・ツリーとカリキュラム・マップを作成し、大学院要項に明示した。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・『2018年度大学院要項』（人間福祉専攻カリキュラム・ツリーとカリキュラム・マップ）	
④専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。 各授業において専門分野の高度化に対応した内容を提供している。 福祉社会専攻では、「福祉社会研究法」において、研究方法論等をオムニバス形式で講義し、高度化に対応した研究能力の向上を図っている。 臨床心理学専攻の「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」では複数の教員が担当し、臨床心理学分野の高度専門職業人として必要な臨床実践技術の講義や事例研究を行い、専門分野の高度化に対応した教育を提供している。	
【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 臨床心理学専攻では、2018年度の開講に向け、公認心理師の受験資格に必要なカリキュラムを編成し、文部科学省および厚生労働省へ科目確認を申請した結果、両省より開講科目として基準を満たすとの回答を得た（平成30年3月30日）。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・シラバス ・文部科学省・厚生労働省回答文書『29受初健食第16号・障精発0328第7号 公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定する公認心理師となるために必要な科目の確認について（回答）』（平成30年3月30日）	
⑤大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。 海外留学への補助金、海外における研究活動補助制度、外国語論文校閲制度などを周知し、利用を促している。また、福祉社会専攻では、英語専任教員による「原書購読研究」を開講し、非英語圏からの留学生及び英語圏への留学希望者を中心に、専門文献の読解を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・応募、採用状況（大学委員会資料） ・シラバス	
3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・研究科教務委員会が、入学時のガイダンスで新生全員に履修指導を行っている。 ・指導教員が個別に研究テーマに即して履修を指導している。 ・修士課程、博士後期課程とも、2年次から副指導教員を定め、指導を個人任せにしていない。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・『2018年度大学院要項』（履修について、指導教員について） ・新生オリエンテーション・ガイダンスにおける配付資料	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【研究指導計画の明示方法】 ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。 ・研究スケジュールについては、「論文関連日程一覧」を周知している。 ・論文作成・審査のプロセス及び諸手続きについては、「学位論文について」で周知している。	
【根拠資料】 ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。 ・『2018年度大学院要項』（論文関連日程一覧、学位論文について）	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
(～400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。 研究科教授会において論文構想発表、中間報告、論文提出、論文審査、論文発表、研究倫理審査などの研究スケジュールを決定し、それに基づき適切に実施している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・研究科教授会議事録	
④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 ・教務委員が分担して全てのシラバスのチェックを行ない、研究科の統一ルールに基づいて必要に応じて担当者に修正等を求めている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・研究科教務委員会資料 ・「シラバス入力の手引き」 ・「シラバス第三者チェック依頼状」	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 ・授業改善アンケート結果を活用し、シラバスに基づいて授業展開されているかを研究科教務委員会において確認している。 ・授業改善アンケートの自由記述の内容から担当教員との対応が必要とされた場合は、研究科執行部が担当教員と懇談を行うこととしている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・研究科教務委員会資料（シラバスチェック一覧）	
3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 ・学位論文の評価については、論文発表会を行い、適切性を確認している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・研究科教授会議事録	
②学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【学位論文審査基準の明示方法】 ※箇条書きで記入。 ・2011年度に各専攻の学位基準を制定し、2013年度の一部改正を経て運用している。学位基準は『大学院要項』に掲載し、周知している。	
【根拠資料】 ※学位論文審査基準にあたる文書の名称を記入。また、冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・『2018年度大学院要項』（人間社会研究科修士課程・博士課程学位基準）	
③学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・「修了年次管理表」を作成し、学位授与者数、学位授与率、学位取得までの年限などを把握している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「修了年次管理表」	
④学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 専攻ごと、年度中盤に実施する構想発表会、年度末に実施する論文発表会には、指導教員以外の教員も出席し、活発に質問・意見等を交換し、研究科全体として学位論文の水準の向上と、水準の検証に努めている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「構想発表会スケジュール表」 ・「年度末に実施する論文発表会スケジュール表」	
⑤学位授与に係る責任体制及び手続を明らかにし、適切な学位の授与が行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【修士】 （～400字程度まで）※責任体制および手続等の概要を記入。 ・指導体制の明確化 4月に開催される研究科教授会において、入学直後に提出される「指導希望教員届け」に基づいて指導教員を決定し、翌年の1月に開催される研究科教授会において副指導教員を決定している。 ・手続	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>各専攻とも修士論文構想発表会（1年次）と修士論文提出後の口頭試問を行っている。</p> <p>・適切性の確認 両専攻とも修士論文発表会を行い、福祉社会専攻では「修士論文評価報告書」を正副指導教員が作成し、研究科教授会で成績評価と合わせて学位授与の適切性を確認している。臨床心理学専攻では全教員で学位授与の判定を行っている。</p>	
<p>【博士】（～400字程度まで）※責任体制および手続き等の概要を記入。ただし、博士については、学位規則のとおりに行われている場合には概要の記入は不要とし、「学位規則のとおり」と記入。</p> <p>・指導體制の明確化 指導教員承認届に基づいて研究科教授会で指導教員を決定し、翌年の1月に開催される研究科教授会において副指導教員を決定している。</p> <p>・手続 博士論文〇年次発表会を行い、研究内容と論文構成について指導している。 論文受理審査（1次、2次；複数名の委員が担当）に合格した論文については、学外の委員を含む複数名で構成される博士論文審査委員会で審査（口述試験を含む）を行い、その結果を踏まえて研究科教授会で可否の審議を行っている。</p> <p>・適切性の確認 合格した博士論文については博士論文発表会（公開）を行い、学位授与の適切性を確認している。</p>	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 福祉社会専攻では、「修士論文評価報告書」のひな形を作成し、2018年度より適用することとした。 博士論文〇年次発表会と名称を変更し、2018年度よりすべての在籍学生を対象とすることとした。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・研究科教授会資料 ・『2018年度大学院要項』（学位論文について「1. 修士課程」「2. 博士後期課程（課程博士・論文博士）」）</p>	
⑥学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。 ・「修了年次管理表」を作成し、学位授与者数、学位授与率、学位取得までの年限などを把握している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・「修了年次管理表」</p>	
<p>3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p>	
①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>（～400字程度まで）※取り組みの概要を記入。 福祉社会専攻では「修士論文評価報告書」を正副指導教員が作成し、研究科教授会で成績評価と合わせて学位授与の適切性を確認している。 臨床心理学専攻では、修士論文発表会に全教員が参加し、発表後に全教員で判定している。</p>	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 ・福祉社会専攻では、「修士論文評価報告書」のひな形を作成し、2018年度より適用することとした。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・『2018年度大学院要項』（修了要件）</p>	
②具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>（～400字程度まで）※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。 ・32名の課程博士、6名の論文博士を授与しており、全国で活躍する研究者を一定数輩出している。 ・臨床心理学専攻では、臨床心理士の資格取得率が95.7%に達しており、十分な成果をあげている。また、修士論文の研究成果を関連諸学会で発表、あるいは「相談室紀要」に投稿している。こうした成果については毎週開催されている臨床心理学専攻会議において全教員が把握している。 ・人間福祉専攻では、毎年度の研究成果を報告書にまとめ、正副指導教員のコメントを追記し、教授会へ提出することを義務付けており、研究の進展を可視化している。</p>	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。 博士後期課程では「研究成果報告書」のひな形を作成して、2018年度から適用することとした。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「2002-2017 博士学位授与者一覧」 ・「臨床心理士受験・合格状況（2002～）」 ・「研究成果報告書」 	
<p>3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>(～400 字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <p>専攻ごとに修士論文構想発表会、修士論文発表会、博士論文構想年次研究発表会、博士論文発表会を行い、教育成果の検証を、専攻及び研究科として定期的に行っている。</p>	
<p>【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>博士論文〇年次発表会と名称を変更し、2018 年度よりすべての在籍学生を対象とすることとした。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究科教務委員会資料 ・『2018 年度大学院要項』（学位論文について） 	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>・2015 年度まで、アンケート結果が良好な教員から、Well-being 研究会（現代福祉学部との合同開催）で事例研究として講義方法の概要を発表して貰っていたが、2017 年度は事例研究会を開催するまでには至らなかった。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・ツリーとカリキュラム・マップを作成することで、各専攻の授業科目の適切性を確認し、大学院要項に明示している。 ・従来から学位論文審査基準を明示しており、福祉社会研究科では「修士論文評価報告書」を新たに作成すること、人間福祉専攻では「研究成果報告書」を教授会で審議することなど新たに改善しており、学習・研究成果を適宜把握・評価し、学位授与の適切性もより明文化されている。 	<p>3.3③</p> <p>3.5⑤</p> <p>3.6①②</p>

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

<p>人間社会研究科では、修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）について記された専攻別の学位授与方針が示されており、その方針と連動性を持った教育課程の編成・実施方針が定められ、それに基づき教育課程が適切に構築・実施されている。人間社会研究科の学位授与方針は、具体的かつ明快であり評価に値する。「2018 年度大学院要項」、「2018 年度人間社会研究科パンフレット」および研究科ホームページにより、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が周知・公表されている。学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の検証は研究科教務会で適切に行われている。</p>

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

<p>人間社会研究科では両課程ともコースワーク、リサーチワークを組み合わせたうえ研究が進行できるように配慮されており、2017 年度には公認心理師指定科目に対応したカリキュラムの改編を行い、文部科学省および厚生労働省より開講科目として基準を満たすとの回答を得たことは評価できる。博士後期課程においては授業科目を単位化し、修了要件とし、</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

「2018年度大学院要項」に公表されている。博士後期課程においてもコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ教育が行われており、「必修科目」としては、リサーチワークに重点を置いた特別演習が設けられている。また研究方法論等をオムニバス形式で講義する「福祉社会研究法」（福祉社会専攻）や複数教員による高度専門職業人として必要な臨床実践技術の講義や事例研究を行う「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」（臨床心理学専攻）など専門分野の高度化に対応した教育内容を提供している。グローバル化推進のための取り組みとして海外留学への補助金、海外における研究活動補助制度、外国語論文校閲制度などを周知し、利用を促すとともに福祉社会専攻では、英語専任教員による「原書購読研究」を開講し、非英語圏からの留学生及び英語圏への留学希望者を中心に、専門文献の読解を行っていることは評価できる。

③教育方法に関すること (3.4)

人間社会研究科では入学時に新入生全員に履修指導を行っている。指導教員が個別に研究テーマに即して履修を指導し、修士課程、博士後期課程とも、2年次から副指導教員を定めており細やかな指導体制を構築している。論文作成・審査のプロセス及び諸手続きについては、2018年度大学院要項内の「学位論文について」で周知している。教授会において論文構想発表、中間報告、論文提出、論文審査、論文発表、研究倫理審査などの研究スケジュールを決定し、それに基づき適切に実施している。シラバスにおいては教務委員が分担して全てのシラバスのチェックを行ない、研究科の統一ルールに基づいて必要に応じて担当者に修正等を求めている。また、授業改善アンケート結果を活用し、シラバスに基づいて授業展開されているかを教務委員会において確認しており、その結果対応が必要とされた場合は、研究科執行部が担当教員と懇談を行うこととしており、適切に検証が行われている。

④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.7)

人間社会研究科では学位論文審査基準について、2011年度に各専攻の学位基準を制定し、「大学院要項」に掲載し、周知している。学位授与状況は「修了年次管理表」を作成し、把握している。学位論文の水準を保つために専攻ごとに年度中盤に実施する構想発表会、年度末に実施する論文発表会で、指導教員以外の教員も出席し、活発に質問・意見等を交換するなど水準の向上と検証に努めていることは高く評価できる。学位授与に係る指導体制は明確化され、手続きについても「2018年度大学院要項」に明文化されており、研究科教授会において適切性の確認も行われている。学習成果を把握するために福祉社会専攻では「修士論文評価報告書」を正副指導教員が作成しており、研究科教授会で成績評価と合わせて学位授与の適切性を確認している。臨床心理学専攻では、修士論文発表会に全教員が参加し、発表後に全教員で判定を行い、適切に評価している。また博士後期課程では「研究成果報告書」を作成して運用している。臨床心理士の資格獲得率が95.7%に達しており大いに評価できる。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

<福祉社会専攻>

【求める学生像】

現代福祉学部はもとより学内外の学部卒業生、専門職についている等の社会人、外国人留学生で、地域社会を基盤にWell-beingの実現を図る福祉社会を創造するための研究を目指す人。

【入学前に修得しているべき能力】

【AP1 知識】 4年制大学で学ぶ社会福祉と地域づくりに関わる知識を修得している

【AP2 英文読解力】 専門領域に関わる英語力を有している

【AP3 思考・判断】 研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる

【AP4 意欲・関心】 研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

【入学者選抜の方針】

1. 筆記試験により、AP1知識、AP2英文読解力について問う

2. 口述試験（面接）において、AP3思考・判断、AP4意欲・関心を問う

3. 外国人留学生及び社会人については、AP1知識、AP3思考・判断、AP4意欲・関心によって選抜することとし、

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

AP 2 英文読解力の筆記試験は免除する

4. 学内進学者については、AP 3 思考・判断、AP 4 意欲・関心のみによって選抜する。

<臨床心理学専攻>

【求める学生像】

現代福祉学部はもとより学内外の学部卒業生や、専門職についている等の社会人で、人間の「生」(Life) をトータルに捉え Well-being の実現を図る福祉社会を創造するための研究を目指す人。

【入学前に修得しているべき能力】

- 【AP 1 知識】 4年制大学の心理学科卒業程度の臨床心理学領域を中心とした心理学に関する知識を有している
- 【AP 2 英文読解力】 専門領域に関わる英語力を有している
- 【AP 3 表現力】 問題状況に関する自身の見方を他者へ正確に伝達できる
- 【AP 4 思考・判断】 研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる
- 【AP 5 意欲・関心】 研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

【入学者選抜の方針】

1. 筆記試験により、AP 1 知識、AP 2 英文読解力を問う
2. 口述試験（面接）において、AP 3 表現力、AP 4 思考・判断、AP 5 意欲・関心を問う

<人間福祉専攻>

【求める学生像】

修士課程修了の一般学生のほか、研究職や高度の専門職に就いている社会人で、地域社会を基盤に人間の「生」(Life) をトータルに捉え、Well-being の実現を図る福祉社会を創造するための研究を目指す人。

【入学前に修得しているべき能力】

- 【AP 1 知識】 当研究科の福祉社会専攻または臨床心理学専攻の修了者あるいはそれと同等の専門知識を有している
- 【AP 2 英文読解力】 研究テーマに関して専門的な英語文献を理解できる英語力を有している
- 【AP 3 表現力】 研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる
- 【AP 4 思考・判断】 研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している
- 【AP 5 意欲・関心】 先端の研究テーマを見出し、自らの研究方法を持って、研究に取り組める

【入学者選抜の方針】

1. 既執筆論文と論文執筆計画の提出を求め、AP 1 知識、AP 3 思考・判断、AP 5 研究力を問う
2. 筆記試験により、AP 2 英文読解力を問う
3. 口述試験（面接）を行い、AP 3 思考・判断、AP 4 意欲・関心、AP 5 研究力を問う

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

①学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

S A B

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

上記の【学生の受け入れ方針】に掲げたポリシーに基づき、福祉社会専攻では①学内選抜入試、②一般選抜入試、③社会人自己推薦選抜入試、④外国人留学生選抜入試、臨床心理学専攻では①学内選抜入試と②一般選抜入試、人間福祉専攻では①一般選抜入試を実施し、すべての入試において研究科教務委員会で実施体制を検討し、教授会において確認している。さらに、入学者選抜の方針に従い、複数の教員が筆記試験と口述試験を担当し、公正な入学者選抜となるようにしている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

また、作問採点担当委員と口述試験担当委員が入試直後に実施および採点結果について検討を行い、改善すべき事項が生じたときは、次年度の入試に備えて研究科教務委員会と教授会において改善策を検討している。

【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

大学として「飛び級入学試験」を導入しているが、本研究科では認めないことを教授会で確認し、2019年度入試よりそのことを明記することとした。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・人間社会研究科修士課程・博士後期課程・研修生 2018年度入学試験要項
- ・2018年度学内選抜入試要項
- ・研究科教務委員会資料

4.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行なうとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。

はい いいえ

(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

福祉社会専攻では、入学定員確保のため、市ヶ谷キャンパスでの一部夜間開講、学外及び学部生への広報の改善、同窓会設立を通じた社会人受け入れの開拓等を実施している。また研究室訪問を制度化し、学外の受験希望者が指導教員の選択や研究テーマを明確化するのに役立てている。

臨床心理学専攻では、定員超過を起こさないよう、3回の入学試験で段階的に定員充足するよう努めている。

研究科のプレゼンス向上のため、多摩共生社会研究所や各種研究プロジェクトと共同して地域に開かれた研究会を開催している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『2018年度大学院要項』
- ・研究科教務委員会資料
- ・多摩共生社会研究所・人間社会研究科共催公開研究会案内

定員充足率 (2013～2017年度)

(各年度5月1日現在)

【修士・研究科合計】

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	30名	30名	30名	30名	30名	
入学者数	22名	23名	26名	22名	23名	
入学定員充足率	0.73	0.77	0.87	0.73	0.77	0.77
収容定員	60名	60名	60名	60名	60名	
在籍学生数	48名	46名	53名	55名	47名	
収容定員充足率	0.80	0.77	0.88	0.92	0.78	0.83

【博士・研究科合計】

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	5名	5名	5名	5名	5名	
入学者数	4名	4名	2名	3名	3名	
入学定員充足率	0.80	0.80	0.40	0.60	0.60	0.64
収容定員	15名	15名	15名	15名	15名	
在籍学生数	9名	13名	14名	16名	17名	
収容定員充足率	0.60	0.87	0.93	1.07	1.13	0.92

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】 大学院研究科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合の提言指針】 ※改善勧告なし

提言	努力課題
修士・博士共通	2.00以上

【定員未充足の場合の提言指針】 ※改善勧告なし

提言	努力課題
----	------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

修士	0.5 未満	
博士	0.33 未満	
4.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。		
①学生募集および入学者選抜の結果について検証を行ない、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。		S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～400 字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 研究科教務委員会及び研究科教授会において、大学院説明会や受験相談会（河合塾心理職進学フェア、LEC 受験応援フェスタを含む）の状況を詳細に報告し、教員間で状況を共有している。 入学者選抜にあたっては、各専攻、研究科教務委員会、研究科教授会で厳正に確認、決定しており、公正かつ適正に実施されている。特に英語の選択問題については、公正に実施できるよう改善に努めている。 入学手続きの結果については、研究科教務委員会及び研究科教授会において確認、検証している。		
【2017 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 人間福祉専攻の入試の英語選択問題が 3 分野から出題される。その問題文のボリュームを 600 単語前後に規定して公平性を確保した。		
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・研究科教務委員会資料		

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
学生の受け入れ条件（アドミッション・ポリシー）を各専攻とも明文化し公開するとともに、多様な入学者選抜制度を用意している。また、公正な入学者選抜となるように、研究科教務委員会を中心にその体制が組まれている。	4.1 4.2① 4.4①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
修士課程では、入学者が両専攻ともに減り、入学定員充足率も低下した。入学者を増やすための入学者選抜制度別の具体的な改善策が急務である。	4.3①

【この基準の大学評価】

人間社会研究科では、求める学生像や修得しておくべき知識等を明確にした学生の受け入れ方針が設定され、公表されている。また、学生の受け入れ方針は具体的かつ適切である。学生募集制度、入学者選抜も適切に行われている。一方、入学者定員確保であるが修士課程において 2017 年度までは安定的に確保されていたが 2018 年度は入学充足率が 0.5 となっている。さまざまな方策への検証と対策が望まれる。博士後期課程では適切な充足率を保っている。学生募集および入学者選抜の結果については、説明会や受験相談会での状況が教員間で共有されており適切である。

5 教員・教員組織

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。
【教員像および教員組織の編制方針】 (2011 年度自己点検・評価報告書より) 人間社会研究科の教員には、上記の大学・研究科の教育理念の基本的理解を前提として、各専攻の教育目標並びに研究科・専攻のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、教育に当たることが要請される。とりわけ高度専門職業人及び研究者養成のために、学生たちの研究課題の決定、研究へのアプローチと方法論など質の高い研究を指導できる教員が求められる。 人間社会研究科には 3 つの専攻が設置されており、教員組織の編制方針はそれら専攻の学問領域に配慮した編制となっている。具体的には福祉社会専攻の教員はソーシャルワーク、システムマネジメント、コミュニティデザインなどを専門と

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

する専任教員が配置され、臨床心理学専攻では臨床心理士や精神科医の資格を有する専任教員が担当している。また修士課程の福祉社会専攻と臨床心理学専攻を総合した人間福祉専攻（博士後期課程）には、福祉社会・臨床心理学両専攻担当の教授クラスの教員が配属されている。修士論文や博士論文の作成に当たって専任教員が正・副の指導教員となり、複数での指導体制をとっている。このため、専門分野の質の高い研究力はもちろんのこと、隣接する学問領域への関心を持ち合わせた柔軟な思考力を具備した教員組織の編制方針が了解されている。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・求める教員像および教員組織の編成方針（2011年度自己点検・評価報告書）
- ・「専任教員招聘規則」及び「大学院担当教員の担当基準と選考に関する内規」

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・研究科執行部（研究科長、専攻主任の2名で構成）が研究科運営の執行責任を負っている。
- ・研究科教務委員会（福祉社会専攻4名、臨床心理学専攻2名、人間福祉専攻1名の計7名で構成〔うち1名が研究科長、人間福祉専攻主任、福祉社会専攻主任を兼ねている〕）において、ガイダンス、大学院説明会、論文発表会、シラバス点検をはじめとする必要な役割を分担し、研究科の運営にあっている。

【明示方法】※箇条書きで記入。

研究科執行部

- ・研究科長（人間福祉専攻主任、福祉社会専攻主任を兼務）
- ・臨床心理学専攻主任

研究科教務委員会（7名、うち2名は上記役職）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・研究科教務委員会資料
- ・研究科教授会議事録

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

（～400字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

下記の【根拠資料】に示す通り、3専攻ともそのカリキュラムにふさわしい数の教員を配置している。教員1人あたりの学生数も適正である。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・下表参照。

2017年度教員数一覧

（2017年5月1日現在）

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	設置基準上必要教員数	
			研究指導 教員数	うち教授数
（修士）福祉社会	14	13	3	2
（修士）臨床心理	8	7	2	2
修士計	22	21	5	4
（博士）人間福祉	19	19	3	2
研究科計	41	40	8	6

研究指導教員1人あたりの学生数：修士人2.14、博士0.89人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】（～200字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。

博士課程の指導においては指導経験が豊富なベテラン教授を必要とするが、定年延長者に頼ることなく、50歳代の教員が主軸になっており、全体として年齢構成のバランスはとれている。また、2018年4月には40歳代の教員2名が教授会構成員として加わり、より良いバランスとなった。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

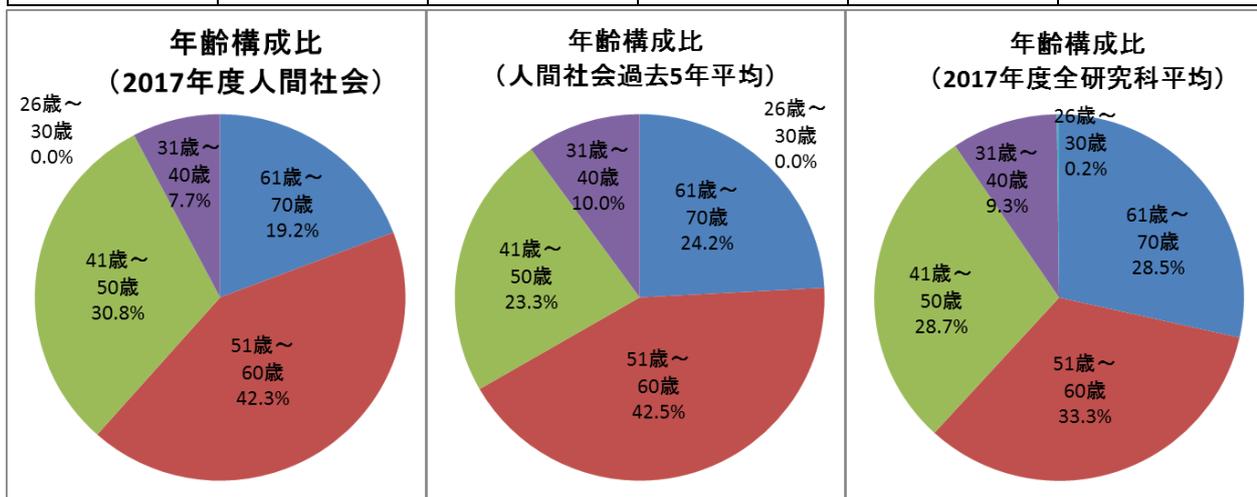
※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

年齢構成一覧

(2017年5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2017	0人	2人	8人	11人	5人
	0.0%	7.7%	30.8%	42.3%	19.2%



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

- ・募集・任免に関しては、「専任教員招聘規則」
- ・昇格に関しては、「専任教員の身分昇格」（学部教授会内規 3-1）、「教員の採用及び昇格の選考に関する規定」（学部教授会内規）
- ・「大学院担当教員の担当基準と選考に関する内規」（研究科内規）

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】 ※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を簡条書きで記入。

- ・教員の募集・採用にあたっては、学部教授会において、学部の講義科目だけではなく、大学院の講義科目や研究論文指導についても検討した上で選考にあっており、学部教授会と研究科教授会との連携を確保している。
- ・昇格の審査にあっても、学部の講義科目だけではなく、大学院の講義科目や研究論文指導についても検討した上で決定しており、学部教授会と研究科教授会との連携を確保している。
- ・博士後期課程の講義及び論文指導の担当については、選考基準にもとづき研究科教授会で決定し、指導の質を保証している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・公募書類
- ・学部教授会議事録
- ・研究科教授会議事録

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①研究科（専攻）内のFD活動は適切に行われていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】 ※簡条書きで記入。

- ・授業改善アンケートを各教員が資質向上のために活用している。
- ・授業改善アンケートの結果を研究科教務委員会が検討し、必要な対応を行っている。
- ・学部と研究科共催で、100分授業に向けた対策について、レクチャーとワークショップを取り混ぜて行い、有意義な学習会を開いている。

【2017年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】 ※簡条書きで記入。

- ・Well-being 研究会（学部との共催）
2017年12月13日（水）福祉301教室

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

竹口 圭輔氏（教育開発支援機構 FD 推進センター長）「100 分授業に向けて」約 15 人

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ Well-being 研究会案内
- ・ 研究科教授会議事録

②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。

S A B

【研究活動活性化の取り組み】※箇条書きで記入。

- ・ Well-being 研究会（学部との共催）において、教員の研究テーマや研究成果概要を発表しあい、問題関心の共有と研究の活性化に努めている。
2016 年 6 月 17 日（土）、市ヶ谷キャンパス 九段校舎 5 階第二会議室
西田ちゆき助教 「法人後見における利益相反への対応と課題」
佐野竜平准教授 「東南アジア地域における国際協力・開発を考える」
- ・ 研究科と多摩共生社会研究所との共催で、公開研究会やシンポジウムを行っている。
- ・ 『現代福祉研究』（現代福祉学部紀要）に各教員の年度ごとの研究成果を掲載し、情報を共有している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ Well-being 研究会案内
- ・ 多摩共生社会研究所公開研究会案内・プログラム
- ・ 『現代福祉研究』（第 18 号）

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究科の教育理念に基づいた教員像および教員組織の編制方針が明文化されており、教員の採用・昇格に関する規則や内規も整っている。また、研究科執行部が教務委員会とともに研究科運営の執行責任を負っている。その結果として、教員の年齢構成はバランスがとれている。 ・ 教員の資質の向上を図るために、授業改善アンケート結果を活用し、さらには学部と共催で Well-being 研究会を開催し、FD ならびに研究活動の活性化を図っている。 	5.1①② 5.2② 5.3①② 5.4①②

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

【この基準の大学評価】

人間社会研究科では採用・昇格において「専任教員招聘規則」及び「大学院担当教員の担当基準と選考に関する内規」が定められている。執行部の構成や委員会などの役割、責任体制も明確であり、3 専攻ともそのカリキュラムにふさわしい数の教員を配置している。教員の年齢構成についてもバランスがとれており評価できる。大学院担当教員に関する各種規程は整備され、それらの運用が適切になされている。教員の資質の向上を図るために、授業改善アンケートの結果を利用し、さらに学部と共催で Well-being 研究会を開催し、FD ならびに研究活動を活性化するための方策も適切に行われており、評価できる。

6 学生支援

【2018 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①研究科（専攻）として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。

S A B

(～400 字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。

新入生ガイダンスにおいて、学生生活に関する諸制度及び手続きについて、『大学院要項』をもとに丁寧に説明している。奨学金関連の書類が急ぎ必要な学生には、研究科教務委員会が組織として対応している。

TA・チューター希望者に漏れなくチューターが配置できるように、研究科教務委員会がマッチングに責任を負っている。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『2018年度大学院要項』
- ・研究科教務委員会資料
- ・研究科教授会議事録

②研究科（専攻）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。 S A B

(~400字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組みの概要を記入。

学生生活に関する諸制度及び手続きを『大学院要項』に掲載し、新入生ガイダンスにおいて周知している。また、支援が必要な学生に対しては、本人及び教職員からの情報をもとに、研究科教務委員会が組織として対応している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
『大学院要項』に基づき、ガイダンスを懇切丁寧に行っており、生活相談にも研究科教務委員会が対応している。	6.1①②

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
留学生の就職は容易ではないため、キャリアセンターとの連携も含めた就職支援体制が課題となっている。	

【この基準の大学評価】

人間社会研究科では外国人留学生へ修学支援として、新入生ガイダンスにおいて、学生生活に関する諸制度及び手続きについて、「大学院要項」をもとに丁寧に説明している。奨学金関連の書類が急ぎ必要な学生には、研究科教務委員会が組織として対応している。またTAチューター希望者にはもれなくチューターが配置できるように研究科教務委員会が対応している。留学生の就職は容易ではないため、キャリアセンターとの連携も含めた就職支援体制の検討が望まれる。学生生活に関する諸制度および手続きについては「大学院要項」に記載し、支援が必要な学生については、研究科教務委員会が組織として対応している。

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。 S A B

(~400字程度まで) ※教育研究支援体制の概要を記入。

留学生に対し、博士課程在籍者・修了者がTA・チューターとして教育研究を支援している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・留学生に対し、博士課程在籍者・修了者が教育研究を支援している。	7.1①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
留学生への教育研究支援が十分でないため、現在のチューター制度の拡充検討が課題となっている。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

人間社会研究科では留学生に対し、博士後期課程在籍者・修了者がTA・チューターとして教育研究を支援しており適切な対応がとられている。

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
---	---

(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

本研究科と多摩共生社会研究所等との共催という形で、社会的に注目を集めている課題についてシンポジウム等を例年行っている。2017年度は2018年3月17日に公開研究セミナーを現代福祉学部棟301教室にて開催した。上記のセミナーは、多摩地域の自治体やNPO等との協力のもと、学生も発表し、教育研究推進の場となった。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・多摩共生社会研究所公開研究セミナー案内・プログラム

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・多摩共生社会研究所との共催の研究会等を毎年開催して、多摩地域に貢献している。	8.1①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

人間社会研究科では多摩共生社会研究所等との共催という形で、社会的に注目を集めている課題についてシンポジウム等を例年行っている。2017年度は2018年3月17日に公開研究セミナーを開催した。上記のセミナーは、多摩地域の自治体やNPO等との協力のもと、大学院生も発表し、教育研究推進の場となっており大いに評価できる。

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

①研究科長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
---	---

(～200字程度まで) ※概要を記入。

研究科長、専攻主任、教務委員、研究倫理委員(学外委員1名含む)、大学院質保証委員など所要の職を置いている。大学院教授会を設け、年に17回、定期的に開催している。

大学院人間社会研究科教授会規定を規定し、規則に則った運営をしている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・研究科教務委員会資料
- ・研究科教授会議事録

(2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
研究科長をはじめとする所用の職を配置し、規定に則って研究科教授会を定期的を開催している。	9.1①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

人間社会研究科では研究科長、専攻主任、教務委員、研究倫理委員（学外委員1名含む）、大学院質保証委員など所要の職を置いている。大学院人間社会研究科教授会規程に基づき、大学院教授会を設け、年に17回、定期的を開催しており適切に運営がされている。

Ⅲ 2018年度中期・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	研究科設立時の理念と目的を共有しながら、常に時代の趨勢との適合性について検証を行う。
	年度目標	国際化、地域間格差などの時代の趨勢と、本研究科での教育に求められることについて確認する。
	達成指標	研究科教務委員会において、教育理念・目的を再確認し、時代の趨勢に対応すべき課題を協議する。
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを通じて、PDCA サイクルで研究科運営の効率性を高める。
	年度目標	質保証委員会と研究科執行部のコミュニケーションを密にする。
	達成指標	年度当初（自己点検評価と目標作成時点）、中間（事業遂行時点）、年度末（年度目標達成確認時点）の3段階で、研究科執行部へのヒアリングも含めた情報交換を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	常に時代の趨勢との適合性について検証を行い、国際化や地域間格差等に対応した教育と高度専門職業人養成のためのキャリア教育の提供のあり方について検討し改編する。
	年度目標	臨床心理学専攻での公認心理師指定科目に向けたカリキュラム改編、研究科全体でのカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー開示の効果について検証する。
	達成指標	左記の活用実態とホームページ掲載へのニーズについて、教務委員が新入生に対して個別ヒアリング調査を実施する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	研究科全体では、少人数授業で効果的な教育方法を推進する。福祉社会専攻では、社会人学生や入学者数に相応しい専門展開科目の授業数や時間割について検証し、改編する。
	年度目標	少人数授業について効果的な教育方法を学ぶとともに、専門展開科目の授業数や時間割について検討する。
	達成指標	Well-being 研究会において、少人数教育の教育方法について学ぶ。福祉社会専攻教務委員では、専門展開科目の時間割配置のあり方について議論する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	学生の個別的な状況に配慮しつつ、学位基準に達するための適切な教育・研究指導を研究科全体で実施する。
	年度目標	2018年度より導入する「博士論文年次発表」と福祉社会専攻の「修士論文評価報告書」について導入成果を協議する。また、博士論文の中間審査制度も検討する。
	達成指標	左記について、研究科教務委員会で検討する。
No	評価基準	学生の受け入れ
6	中期目標	修士課程において学部卒業生、社会人、留学生等のバランスの良い入学者の確保を図り、研究科全体の入学定員充足率を高い水準で保つ。
	年度目標	福祉社会専攻では、社会人入学生を増やすためのターゲット絞り込みと改善策、臨床心理学専攻で

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		は、学内進学以外の入学者を増やすための改善策をそれぞれ検討する。
	達成指標	左記について、研究科教務委員会ならびに各専攻懇談会において協議する。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	教育理念・目的に合致するような専門分野の教員を配置し、かつ研究科の持続的な発展を目指した年齢構成を維持する。
	年度目標	福祉社会専攻の専任教員の充足を行う。
	達成指標	福祉社会専攻の専任教員1名を新規採用する。
No	評価基準	学生支援
8	中期目標	外国人留学生の教育・研究ならびに就職に関する支援をより一層充実させる。
	年度目標	現在のチューター制度の拡充について検討する。さらに留学生の就職支援のためにキャリアセンターとの連携について検討する。
	達成指標	左記について、研究科教務委員会で検討を重ねる。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
9	中期目標	修了生がどのように社会と接点を持ち、貢献しているのかを常に確認するとともに、研究科が地域社会と連携し、貢献するための方策を検討し実践する。
	年度目標	各専攻ともに、修了生どうしが情報交換し各分野の研鑽を積む場を提供する。従来同様、学内多摩共生社会研究所等との共催で公開研究会を開催する。
	達成指標	福祉社会専攻では、修了生の進路調査を行い、同窓会の定期開催に向けた研究・活動報告会開催の検討を行う。臨床心理学専攻では、同窓会との共催による講演会・研修会を開催する。さらに学内多摩共生社会研究所、その他各種研究プロジェクト等との公開研究会を行う。

【重点目標】

2018年度修士課程入学者が両専攻ともに減り、入学定員充足率も低下した。入学者選抜制度別の抜本的な改善策を講じるために、研究科教務委員会ならびに各専攻懇談会において協議するとともに、年次計画を立てて着手していく。

【2018年度中期・年度目標の大学評価】

人間社会研究科において臨床心理学専攻での公認心理師指定科目に対応したカリキュラム改編は評価できる。学位授与方針と教員組織に応じたカリキュラムはさらなる専攻内での活発な議論を通じて成熟されることを期待する。教育方法についてWell-being研究会において少人数教育の教育方法について学び、福祉社会専攻教務委員では、専門展開科目の時間割配置のあり方について議論することは評価できる。また学習成果として、2018年度より導入する「博士論文年次発表」と福祉社会専攻の「修士論文評価報告書」についての成果を期待したい。2018年度修士課程入学者が両専攻ともに減り、入学定員充足率も低下しておりさまざまな方策への検証と対策が望まれる。学生支援として留学生に対して現在のチューター制度の拡充、さらに就職支援のためにキャリアセンターとの連携が効果的に行われ、支援が充実することが期待される。社会貢献・連携について福祉社会専攻では、修了生の進路調査を行い、同窓会の定期開催に向けた研究・活動報告会開催の検討を行い、臨床心理学専攻では、同窓会との共催による講演会・研修会を開催や多摩共生社会研究所、その他各種研究プロジェクト等との公開研究会を行うことは評価できる。人間社会研究科の中期・年度目標は、問題点を適切に捉えかつ具体的であり、評価できる。

【大学評価総評】

人間社会研究科は、時代の趨勢を見極め、現代に求められる教育を目指し、高い意識を持った教員組織とコースワークとリサーチワークを有機的に統合した教育課程を有し、現代社会に見合った形に整備されている。内部質保証委員会は研究科長経験者により構成され、研究科執行部（研究科長・専攻主任）へのヒアリングを行いながら、点検・評価の検討を行い、今後の課題について議論を進め、質保証の要であるPDCAサイクルを実質的に機能させて効率性を高めている。この質保証体制を基軸に組織と教育の改革が継続的になされていることは高い評価に値する。

教員組織においては、上記の質保証体制の他、研究科執行部が運営の責任を負い、また研究科教務委員会が組織され、ガイダンス、大学院説明会、論文発表会、シラバス点検をはじめとする必要な役割を明確に分担することにより効果的な運営を実現させている。教員組織の年齢構成もバランスが取れており、定年延長者に頼ることなく、長期的な観点に立ち、維持運営している。さらに教員の資質向上を図るため、授業改善アンケートの結果を活用し学部と共催でWell-being研究会を開催するなど、FD活動および研究活動の活性化を図っていることは評価できる。

教育に関しては、修士・博士両課程においてコースワークとリサーチワークが適切に組み合わせられた効果的な教育が行

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

われていることは大いに評価できる。シラバスについても教務委員会が全てのシラバスをチェックするなど、確認と適切性の検証がなされている。また、2018年度開講に向け、公認心理師の受験資格に必要なカリキュラムを編成し、文部科学省および厚生労働省に申請した結果、開講科目として基準を満たすとの回答を得たことは評価できる。一方で2018年度修士課程入学者が両専攻ともに減り、入学定員充足率も低下していることから、さまざまな方策への検証と対策が望まれる。

教育・研究の両サイドから検討を進め、さらなる改善に向けての努力がなされていることは大いに評価される場所である。今後も継続的な評価・検討・改善を実施し、さらなる飛躍に期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。